海外の話題

BREXIT アップデート

農林中央金庫　ロンドン支店長　大石　稔

「Dense fog in the Channel, Continent isolated」（英仏海峡に濃霧、大陸が孤立）。これはかつて英紙の天気予報で使われた有名なユーモアである。濃霧で交通が遮断され、孤立するのはどう考えても英国なのに「大陸が孤立」というところに面白さがあるのだが、昨今の BREXIT を巡る混乱の結果、もはや笑えないジョークになってしまった。

前回（2018 年 7 月）BREXIT について書いたため、今回は別の話題をとも考えていたが、現在の状況ではロンドンにいる人間としてこの話題に再び触れないわけにはいかなくなった。本稿執筆時点（3/24）では当初予定されていた 3/29 の離脱はなくなり、議会が現行の離脱協定案を否決するかどうかで 4/12 または 5/22 が新たな離脱日として設定されている。合意なき離脱での経済大混乱の可能性は低くなってはいると思われているが、まだその可能性も残されており状況は予断を許さない。

政治が混乱する一方で BREXIT の英国経済に与える悪影響は顕在化してきている。ホンダがイングランド南部の Swindon に持つ工場の閉鎖を決め従業員 3,500 人が失業するリスクにさらされている、というニュースは当地でも大きく取り上げられたが、この Swindon は先の国民投票で離脱賛成が 55%を占めていた地域であった。先日国会議事堂前で工場閉鎖に反対するデモを行った従業員の一人は「こんなことになるとは思っていなかった」と語っていたが、後の祭りである。今月に入りフランスの税関職員が「BREXIT になればこうなる」ということを示すとともに賃上げと出入国管理の強化を迫られている現状の厳しさをアピールすべく、ユーロスターのパリ北駅で乗車の際の手荷物チェック等を通常よりも長時間かけて行った結果、列車が軒並み 2 時間以上遅れて大混乱となり、当支店職員の出張にも影響が出ている。

こういった中であっても、最新の世論調査では「EU が譲歩を拒否するなら合意なしでも離脱すべき」とする人は 44%におよんでいたし、別の調査では「どうなってもいいからとにかく早く離脱してほしい」が 55%となっていた。英国民は国民投票以降 3 年に渡りこの問題につき合わされ続け、「もううんざり」しており、「（合意ありでも無しでも）どっちでもいいからとにかく早く終わらせてくれ」というのが多くの英国民の正直な思いのようだ。

16 年の国民投票で離脱派が嘘を並べてナイーブな世論に訴えた結果、この国は完全に分断されてしまい、もはや修復不可能と思える。昨日ロンドン中心部で 100 万人（主催者発表）が集まり 2 度目の国民投票を求めデモを行い、小職もたまたま居合わせたが、あまり報道されないがデモの周辺では離脱推進派の市民が小規模ながらもデモを行っており、そこかしこで言い合う光景が見られていた。相変わらず分断されたままの世論、それに加えて上述の国民に広がる疲弊感の中では、たとえ再び国民投票を行ったとしても前回の結果を覆すものがそう簡単に出るとは考えにくいと感じる。

離脱日が多少延期されたといっても、たかだか最大 2 ヶ月足らず。十分な時間もなく、メイ首相の去就も含め混乱に拍車がかかりつつある英国政治の中でどのような結論が出されるのであろうか。市民生活に混乱を与えることなく、英国と欧州大陸の間の濃霧が晴れてくれることを祈るばかりである。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます